

共生・公正・創造



ユニオン・EYE

<http://www1a.biglobe.ne.jp/jrtu-EWU>

ジェイアール東日本労働組合
〒108-0014 東京都港区芝5丁目33番36号
TEL(NTT)03-3453-2107 (JR)057-2290
発行者/今井 伸 編集者/平 憲治

“ 「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”

「国鉄改革の裏側」ダイジェスト版 第13回

あの元国鉄労働課長が明かす「国鉄改革の裏側第5弾」が【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”】という本になった。本紙は筆者（宗形明氏）の了解を得て、『JR東日本革マル問題の現状』をダイジェスト版として紹介することとした。



歴史を画す東ユニオンと東労組の「6.17合同集会」

6月17日、長野市バスターミナル会館において、JR東日本ユニオン長野地本とJR東労組長野地本の共催による「今後のJR労働運動を考える長野県集会 - 対立から対話へ、そして未来へ! - 」が開催された。これがJR東日本革マル問題の歴史にとって画期的な重大事件であることは、JR労働戦線においてJR連合とJR総連が激しい組織争いを展開している中で、JR東日本ユニオン長野地本はJR連合傘下労組、JR東労組長野地本はJR総連傘下労組であるからだ。これまでの経緯からいわば水と油、犬と猿の間柄と思われ、実際にそうであった二つの労組が共通の認識、一つの旗印の下に長野の地で融合、合同集会を開催したのである。共通の認識、一つの旗印とは何か。それは「JR労働運動に革マル派は要らない」ということだ。

【主催者挨拶・村田JR東労組長野地本委員長代行】

この間、横領容疑で本部に対して我々の金が使われたのが事実かどうか見解を求めてきたが、一切回答はない。それどころか、そんなことを聞くこと自体がナンセンスとして統制処分をかけてきた。本部派遣などという我々が求めていることをやり、求めている専従指定はしない。本部との関係修復は全く不可能である。東日本ユニオンとはJRにふさわしい労働運動はいかにあるべきか本集会について議論してきた。東日本ユニオンとは、できるところから共同行動を積み上げていこう。東労組には若い組合員が大勢おり、彼らのために良い組合を残していきたい。長野支社の未来を真剣に考える時が来た。そのための第一歩の集会としたい。

【同・片瀬JR東日本ユニオン長野地本委員長】

様々な圧力の中、集会に参加された東労組組合員の皆さんに敬意を表したい。我々は、東労組から「養殖組合」と誹謗されてきたが、自力で組織を創ってきたという自負があり、民主的な労働組合運動をめざしてきた。世間で信じられないことが起きているのがJR東日本であり、公正・公平・秩序ある会社にしていかねばならない。自由闊達な組合運動をめざす東労組長野地本の本部に対する闘いは、正義の闘いだ。革マルを排除し、正常な労使関係の確立をめざしていきたい。

・ ・ ・ところで、ここに実に不思議なことがある。たかが他労組所属の旧友とキャンプに行っただけなのに集団で苛め、脱退・退職を強要したJR東労組が、この「JR東日本ユニオン・JR東労組両長野地本共催で歴史的集会を開催!」にこれといった反応も見せないのだ。JR連合傘下の東日本ユニオン長野地本とJR総連傘下の東労組長野地本が「反東労組本部」の内容で合同集会を開いたのだ。これはもう、東労組長野地本の行為は「組織破壊者」なんてレベルの話ではないだろう。にもかかわらず、東労組本部は“ほとんど沈黙”状態なのだ。いわば、長野地本全体を「組織破壊地本」と規定して断罪すべき由々しき状況だというのに!これはかつてない現象である。JR総連も含め東労組の深層部分で“何か”が起こっているようである。

【「JR総連・東労組」崩壊の兆し!?”(高木書房)P.127~P.132】